

正覚院本堂屋根・瓦葺直し/床下基礎・扉工事

瓦屋根は30年毎の点検が望まないとされ、正覚院にも既にその時期が訪れております。令和四年秋、本堂屋根の雨漏がありました。

そのため令和七年五月十三日より宮大工「亀山建設」(安土城天守閣モデル作成/鶴丸城御楼門建設)により、本堂修繕を執り行って参ります。

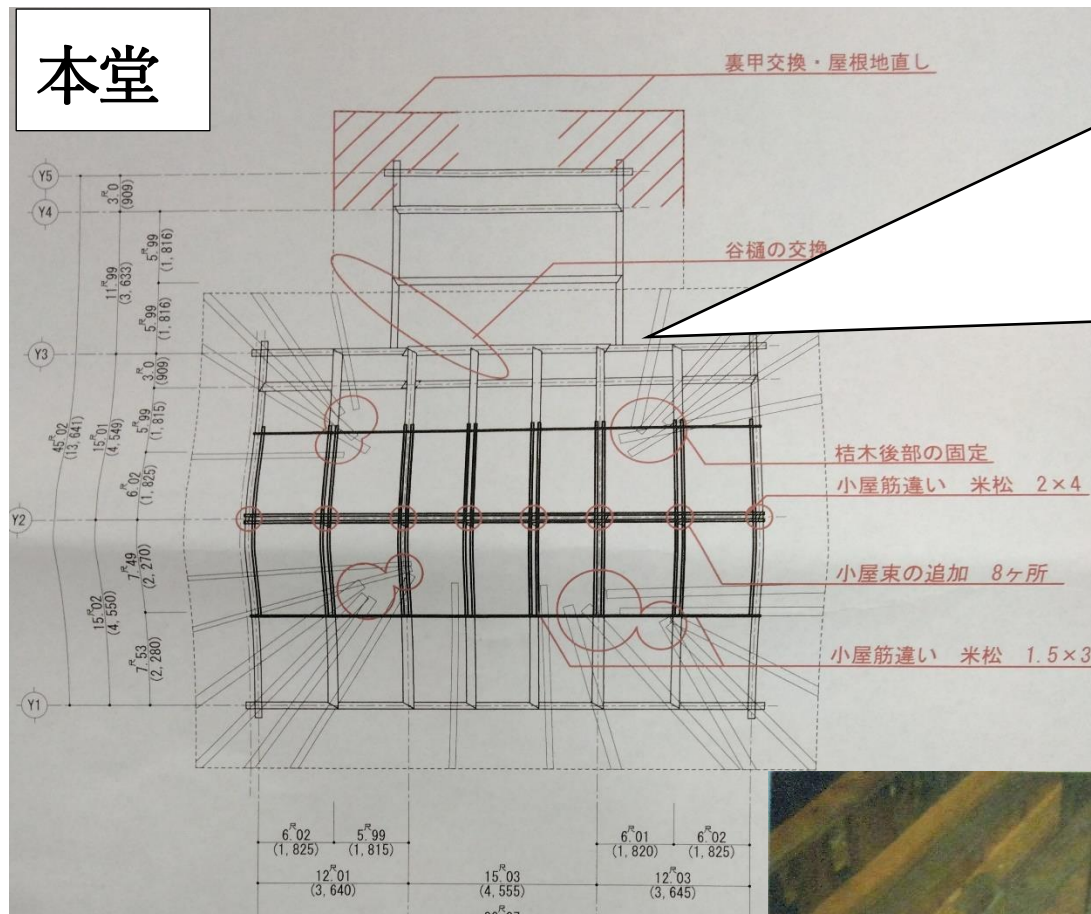
亀山建設 HP



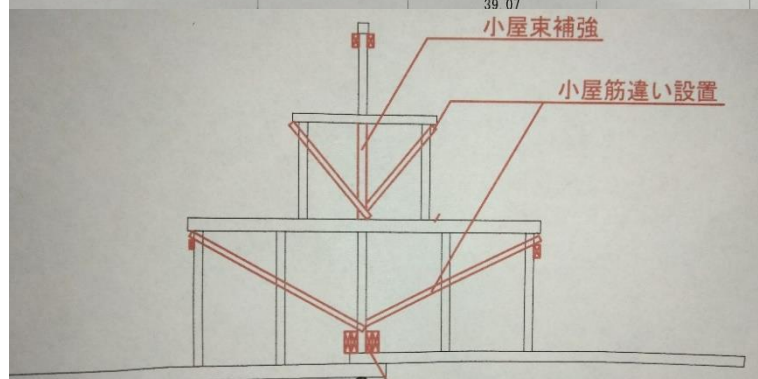
本堂屋根裏の柱不足・破損に対する補強工事

本堂建築時の基準と現状基準では耐震面で異なります。全体的に柱の不足、固定がされていない為、補強工事、破損部分の交換等を行います。

本堂

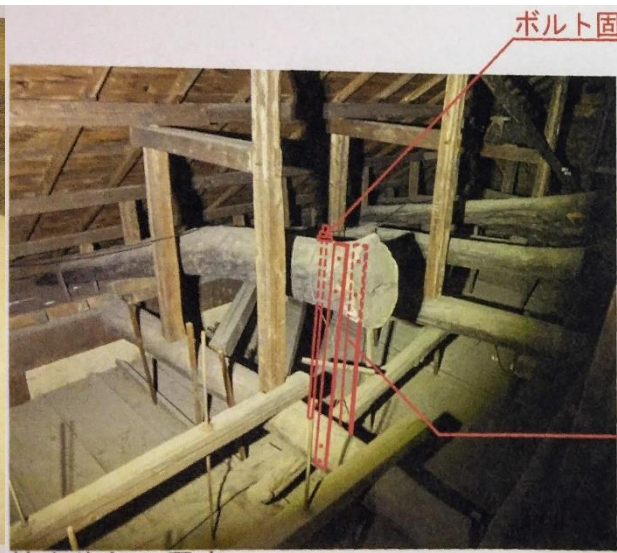


本堂の須弥壇あたり屋根裏の横柱(小屋梁)がたわみ、ヒビがあります(下写真)。また、結木下の枕木の折損もあります。残念ながら、放置してもこれ以上良くなることはありませんので修繕工事を行います。





④ 桔木下の枕木の折損



桔木後部の固定

ボルト固定

振れ止め

本堂屋根の葺直し工事



くだけむね

本堂の屋根も葺直しが必要です。降棟と呼ばれる部分にも瓦の隙間から水が入り、通年植物が生えています。つまり、瓦下(土と屋根板部分)に一定の水分が何年もある状態であり、瓦下に腐食がないか点検する必要があります。

他、床下基礎／扉工事も 執り行っています。

暁堂元龍大和尚(1592年没)が開創した正覚院の御本尊様を
いままで御守りできたのも 偏に 皆様の御信心によるものと言う他ござ
いません 現住職として いままでのご厚情に 深く御礼申し上げます

大豆戸山 正覚院